

# 奨励賞

## 秋吉台自然動物公園サファリランド「キッズサファリ」

株式会社ブレック研究所 重松博美・玉井邦治・木寺由香葉

### □「動物になってみよう！」をテーマとした広場

秋吉台自然動物公園サファリランドは、秋芳洞に代表される秋吉台国定公園内に位置する中国地方唯一のサファリ型動物園である。

そのリニューアル第1弾となるキッズサファリでは、「動物になってみよう！」をテーマに、これまでにない新たな魅力づけを行うことを提案した。

そして、動物が生息している環境の様子やそこで暮らすためのさまざまな能力を、その動物になったつもりで遊びながら学ぶことができる「環境体感型遊具」、ミニアキアットやプレーリードックなどの「動物展示」、さまざまな動物と直に接することができる「ふれあい空間」など動物たちと友達になるためのさまざまな舞台

が融合する「環境体感型遊具広場」の実現を目指した。

### □動物たちの特殊能力に感動

キッズサファリでは計画地の地形の高低差等を活用して全体を森・草原・湖沼の3つの環境エリアに区分し、それらを関連づけ水が生命の源となっていることを象徴する流れを設けた。そして、そこに暮らす動物の特徴的な行動や、特殊能力を遊びながら実体験することによって、見るだけではわからない動物たちのすごさに感動を覚える施設とした。

### □森エリア

森で育まれた水が滝となって流れ落ち、キッズサファリを貫く流れとなるその源流をイメージする空間を展開した。ここでは、森に生息する動物としてフクロ



ジャブジャブ池のほりでは手押しポンプで実物大のアフリカゾウの鼻から水を噴出して遊べる

## 作品概要

作品名：秋吉台自然動物公園サファリランド  
「キッズサファリ」  
所在地：山口県美祢市美東町赤1212  
発注：田中金属株式会社  
設計：株式会社ブレック研究所  
設計協力：有限会社ケン設備設計事務所  
監理：株式会社ブレック研究所（森エリアを除く）  
施工：高山産業株式会社、山陽建設工業株式会社、有限会社ヤマナカ建工、株式会社アトリエ・ティーエムバーガー、内田工業株式会社 ほか  
設計期間：平成20年4月～平成20年10月  
施工期間：平成20年11月～平成21年4月  
規模：約4,300m<sup>2</sup>  
主要施設：  
森エリア（おさるになってぶらぶら、トラのかくれんぼ 等）  
草原エリア（コビエクライミング、スピードくらべ 等）  
湖沼エリア（ゾウの水鉄砲、いのちの水（ジャブジャブ池）等）

## 作品評

本作品は、山口県の秋吉台国定公園内に位置する秋吉台自然動物公園サファリランドの全体の再整備の一部分であり、民間の施設のリニューアルにおいて質の高い空間を形成したことが注目された。また、「動物になってみよう！（動物の行動や特殊能力を体験）」というテーマのもとに、動物が生息している環境の様子やそこで暮らすためのさまざまな能力を、子供たちが遊びながら学ぶことのできる遊具と動物展示との融合を図った「環境体感型遊具広場」の形成という提案にも、オリジナリティや情報発信性が感じられ、高く評価された。

本作品の特徴である「環境体感型遊具」の設計においても、子供たちが遊びながら、また、楽しみながら野生の動物の生態や身体能力を学ぶことができるよう、よく工夫されたものとなっている。さらには、これらの遊具が空間全体と調和しながら、楽しい空間を形成するように、その形状や色彩を設計しており、ランドスケープ空間の形成に対する設計者の意識の高さが表れている。

ウの動物展示のほか、枝渡りをするサル、木にぶら下がった巣をつくるハタオリドリ、優れた視力を持つタカ、顔に集音機能を持つフクロウ等になったつもりで遊べる遊具を配置した。

## □草原エリア

流れの側にサバンナの大草原に点在する岩の丘（コピエ）を配し、その周りに動物たちが憩うアフリカのサバンナ草原をイメージした空間を展開した。ここでは、草原に生息するプレーリードックやコピエをなわ

ばりとするミーアキャット等の動物展示のほか、さまざまな動物たちの走る速さや跳ぶ距離を遊びながら体感できる遊具を配置した。

## □湖沼エリア

最後に流れの水が集まる場所は、動物たちも集う場所とし、生命の源である水の大切さを伝える「いのちの水」をイメージした空間を展開した。ここでは、ジャブジャブ池にゾウを配し、手押しポンプで鼻から水を噴出して遊ぶことができるようにした。



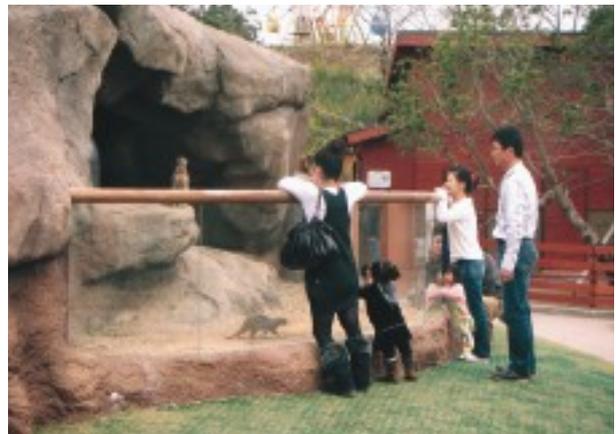
おさるになってぶらぶら（サルの枝渡りを体感）



コビエクライミング（サバンナの岩の丘を模した遊具）



スピードくらべ（様々な動物の走る速さを体感）



コビエクライミングのミーアキャットの動物展示